

1年9カ月に崩壊

南国市長

杉本恒雄

すでにご承知のとおり、私は今議会において不信任を受けました。これがいかに不当で、非常識な陰謀によるものであるかということ、何よりも残念なのは日本にも例のない恥かしいことであり、いかに南国市議会が次元の低いかということ、これを天下に知らせたということであり、

この不信任に対してただちに議会解散をもって応ずるのが政治の常道であることは私も十分に承知しておりますが、私の体は医者の診断によれば相当に長期の治療を要する状態にあり、解散をしてもその後の期間市長としての勤務ができない現状であります。

また、現在選挙は進行しておりますのでこれを途中でストップすることは、私を不信任した人々に対する多少の打撃にはなるかも知れませんが、私が市長として考えることは解散して泥仕合いを始めることではなく一日も早く正常な南国市に返し、市制始まって以来の危機的財政状態を打開するために議会も執行部も、市民も一丸となって努力することです。

個人的には、私も極めて残念な思いが残りますが、大極的に立って議会解散を断念し静かに身を引いて、これからは一市民として南国市のために尽したいと思っております。

一日も早く市議会選挙を終り更によい市長を迎えて田園文化都市としての誇り高い南国市の創造に励まされんことを祈念してやみません。



市長は単なる政治家ではなく、市民の良識の代表だ。いさぎよく市長の座を去ると、市職員を前に退陣を語る杉本市長（10月6日市役所大会議室で）

とりまく状況は大変きびしいものがあり、市民のなかにも「市政のことは市長や市議員にすべておまかせ」といった自治意識の低さもあって、市長のいう「市民の論理」が十分理解できていないことも、全国で例のない「市長退陣」を生んだといえそうです。

田園都市 づくりりに情熱

「残念が残らないといえはウソになる」と前置きして「私は私なりに田園文化都市をつくりたいと希望に燃えていた」——この

市長選挙は 五十日以内

構想について市長は「田園文化都市は永遠をつくるものだ。頭・身体・心をつくるためには食糧をつくり確保することだ。そのためには農業の振興を図り、その生産基盤である土地を守らなければならぬ。乱開発や都市化を防ぎ、良好な生活環境を守り育て、文化の振興を図る必要がある。田園文化都市とは、これらのすべてがバランスのとれた都市ということで、これはまた、永遠の課題である」と力説し、積極的な「南国市の未来像づくり」に取り組んでい

市長は単なる政治家でなく 市民の良識の代表だ

「議会解散か」「市長退陣か」
九月市議会で不信任をつきつけられた杉本市長は十月六日、市職員を前に「私が政治家であれば解散したが、市民の良識の代表であり、いさぎよく南国市長の座を去る」所信表明があり、十一日をまって自動的に市長の職を去ることを明らかにした。

「低次元の市議会」と批判

杉本市長は十月一日、市議選の始まる直前、市議会から不信任をつきつけられ、議会を解散するが十一日までまって自動的に市長の職を失うか、注目されてきました。が、十月六日「健康状態」を理由に退陣することを明らかにしました。
杉本革新市長は昭和四十八年十一月、社会党・共産党・地区党で構成する「明るい南国民主市政をつくる会」を推せん母体に立候補

不信任は 非常識な陰謀

それにより「不信任は不当で非常識な陰謀であることは誰の目にも明らかだ」と、しなから「何よりも残念なことは、日本に例のない恥しいことであり、いかに市議会が次元の低いものであるかを天下に知らせた」と、痛烈に市議会を批判。日ごろ温和な人柄で評判の杉本市長と思われないうかりを表明しました。
不信任の理由とされた三つのことについては、「十市の市有地の専決処分については、黒い霧で攻撃されて赤字を表面に出さないようにした。どんなにたたかれても良心的にいたむところは無い。空港開

退陣は 健康上の理由

不信任に対抗する手段としては議会解散の道がありますが、それを行なわないのは「健康上の理由」としているもの、すでに市議選も始まっており「解散して泥仕合をするよりも一日も早く市政の正常化をし、市・市議会・市民が一丸となって財政危機の突破を」というのが真相のようです。また、市職員へのあいさつでは、その真相について具体的に「市長は単なる行政マンでなく、単なる政治家でもなく、市民の良識の代表だ。私が政治家であれば解散したであろう。私は市長であって政治家ではない。市長は常に市民の良識の代表でなければならぬ」と、市民市長の心うちを率直に述べています。
もともと少数与党（三十人のうち与党四人）で船出した杉本革新市政とはいいながら、市長選の深いしこりや推進母体の社会党と共産党の不仲など、革新杉本市長を

全国初の「市長退陣」

議会解散権を行使せず